



## ～出穂は平年より早い見込み。適切な水管理を！～

| 8 月 | 上 旬                  |   |    | 中 旬                    |    | 下 旬             |    |
|-----|----------------------|---|----|------------------------|----|-----------------|----|
| 日   | 1                    | 5 | 10 | 15                     | 20 | 25              | 31 |
| 生 育 | 出穂期                  |   |    | 傾穂期                    |    | 乳熟期             |    |
| 水管理 | 湛 水 管 理              |   |    | 間 断 か ん 水 ※あきたこまちRの場合  |    |                 |    |
|     | 湛 水 管 理（カドミウム吸収抑制対策） |   |    |                        |    | 間 断 か ん 水       |    |
|     |                      |   |    |                        |    | ※ 最終落水は出穂30日後以降 |    |
| 作 業 | ★斑点米カメムシ類対策          |   |    |                        |    |                 |    |
|     |                      |   |    | 薬剤防除                   |    | 薬剤防除            |    |
|     |                      |   |    | 農道・畦畔草刈り<br>※薬剤防除後7日以内 |    |                 |    |
|     | 休耕田・法面の草刈り禁止期間       |   |    |                        |    |                 |    |

## 1 7月25日現在の生育状況 ～ 草丈は依然長く、茎数は少ない ～

○7月25日現在の生育は、草丈は平年比117%とかなり長く、茎数は平年比82%では場間差がありますが、かなり少なくなっています。葉数は平年差0.6葉と進んでいます。葉色は平年比99%と平年並です。

○仙台管区气象台が令和7年7月24日に発表した東北地方の1か月予報(7月26日～8月25日)によると、向こう1か月の気温は高い見込み、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込みとなっています。

表1. 7月25日の水稻定点調査結果(農業振興普及課)

|              | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 葉数<br>(葉) | SPAD |
|--------------|------------|---------------------------|-----------|------|
| 本年           | 85.4       | 449                       | 13.1      | 38.0 |
| 平年           | 72.9       | 546                       | 12.5      | 38.3 |
| 平年差<br>(%・±) | 117%       | 82%                       | 0.6       | 99%  |

(あきたこまち・管内5地点)

## 2 水管理 ～ カドミウム対策の徹底と高温対策を ～

## 水不足で用水確保が困難な場合

○用水が地域全体に行き渡るよう、こまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めましょう。また、漏水がないよう畦畔の補修に努めてください。

○下流域では用水が行き渡らない地域も出てきています。地域農家や関係機関と協力して節水管理に努め、入水時間を申し合わせるなど、計画的な用水の供給に努めてください。

○出穂期は多くの水を要する期間です。出穂後10日間は5cm程度の湛水管理(水深が浅いと水温が高くなるので注意)が基本となります。

○本年は高温が予想されるため、出穂後10日以降は、高温対策が必要です。かけ流しかん水による方法が効果的ですが、かけ流しが困難な場合は、落水期間が短い間断かん水や、午前中にかん水するなどの水管理を行ってください。

○湛水できないほど用水が不足している場合、溝切り跡への通水により土壌水分を補充してください。ただし、穂揃期前後はイネの吸水量が大きいため、かん水不足でイネが萎れないよう注意してください。

あきたこまちR以外の品種では、従来どおりカドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間の湛水管理を徹底してください。

J A・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者への直接販売をしている方は、ご自身の責任で確実に玄米カドミウム濃度を分析し、安全な米の販売を行ってください。



分析機関等の詳細な情報はこちらから (<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/90269>) ↑

### 3 病害虫防除 ～ ほ場巡回でいもち病の発生確認を ～

#### ①斑点米カメムシ類

- 薬剤防除はイネの出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）を確認し、出穂期の10日後頃にスタークル剤またはアルバリン剤の茎葉散布を行います。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。
- 出穂したカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場、またはイネ科植物が主体の牧草地や休耕田に隣接したほ場では、出穂期10日後頃の散布に加えて、出穂期24日後頃にもキラップ剤またはエクシード剤による茎葉散布を行います（下図）。

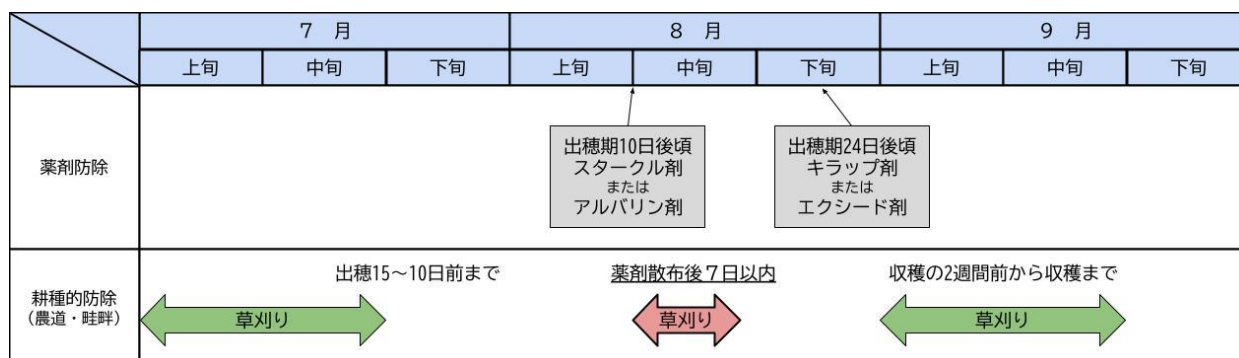


図1 斑点米カメムシ類の防除について

近隣に水稻以外の作物（野菜等）がある場合や養蜂業者がいる場合は、薬剤散布前に情報交換を密にして散布を実施してください。

#### ②いもち病

- 県病害虫防除所より7月25日に病害虫防除対策情報が発表されています。それによると県北部での発生が多い状況です。管内でも発生が確認されているので巡回により確認を行ってください。
- 葉いもちが発生しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前にビーム剤またはトライフロアブルと穂揃期にラブサイド剤またはトライフロアブルで茎葉散布を行います。
- 本田での薬剤の総使用回数は、テブフロキン剤（トライ剤）は2回、フサライド剤（ラブサイド剤、ブラシン剤等）及びトリシクラゾール剤（ビーム剤、ノンブラス剤等）はそれぞれ3回以内となっているので注意して下さい。

#### ③ごま葉枯病

- 過去にごま葉枯病の発生があり、「秋落ち」が認められるほ場では、出穂直前と出穂期にブラシンフロアブルまたはノンブラスフロアブルを散布してください。

**！今後も高温の予報！作業前に「熱中症特別警戒情報」等の発表を確認しましょう！**

あきたこまちRを  
紹介しています！  
紹介ページはこちら



※クマにご注意下さい  
クマに関する情報はこ  
ちらから



熱中症対策には環境  
省の熱中症予防情報  
サイトを活用下さい

